

言いかえてみよう！慣用句プリント③

足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の ことば ふつうの 言い方 ↔ ^{かんようく}慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい この くらいの そうじは 朝飯前だ。 → この くらいの そうじは とても かんたんだ。

下の れい 弟は サッカーが 上手に なる ために、毎日 がんばって いる。 → 弟は サッカーの ^{うで}腕を ^{みが}磨いて いる。

1 ^{かん}慣用句を、^くふつうの 言い方に 書きかえよう

れいの ように 書きかえます

(1) ぼくの ミスで、チームの 足を引っ張って しまった。

(2) けんかを した とき、先生は 妹の 肩を持った。

(3) なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな 首をかしげた。

(4) あの お店の 人は 腰が低くて、感じが いい。

(5) 山道を 歩いて、足が棒になった。

2 足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の どれかが 入る ^{かん}慣用句を 思い出して 書こう

箱は ありません

(6) ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、今か今かと 待っ ている。

(7) 大きな ヘビが 出 きて、わたしは びっくりして すわりこんで しまった。

(8) さいごの 試合に まけて、チームの みんなは がっかりして 元気を なくした。

(9) 自由研究を 出し終えて、やる ことが なくなり、ほっと した。

(10) お花を 買う ために、わざわざ 遠くの 店まで 出かけた。



言いかえてみよう！慣用句プリント③【こたえ】

足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の ことば ふつうの 言い方 ↔ ^{かんようく}慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい この くらいの そうじは 朝飯前だ。 → この くらいの そうじは とても かんたんだ。

下の れい 弟は サッカーが 上手に なる ために、毎日 がんばって いる。 → 弟は サッカーの ^{うで}腕を ^{みが}磨いて いる。

1 ^{かん}慣用句を、^くふつうの 言い方に 書きかえよう

れいの ように 書きかえます

- (1) ぼくの ミスで、チームの 足を引っ張って しまった。

ぼくの ミスで、チームの じゃまを して しまった。

意味：仲間の じゃまを する ×れい：足を 手で 引いた

- (2) けんかを した とき、先生は 妹の 肩を持った。

けんかを した とき、先生は 妹の 味方 を した。

意味：味方 を して かばう ×れい：妹の ^{かた}肩を 手で 持った

- (3) なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな 首をかしげた。

なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな ぎもん に 思った。

意味：ぎもん に 思う、なっとくできない ×れい：首を ななめに した

- (4) あの お店の 人は 腰が低くて、感じが いい。

あの お店の 人は ていねい で、感じが いい。

意味：ていねい で えらそうに しない ×れい：せが ひくい

- (5) 山道を 歩いて、足が棒になった。

山道を 歩きすぎて、とても つかれた。

意味：歩きすぎて つかれる ×れい：足が ^{ぼう}木の 棒に なった

2 足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の どれかが 入る ^{かん}慣用句を 思い出して 書こう

箱は ありません

- (6) ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、今か今かと 待って いる。

ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、首を長くして 待って いる。

今か今かと 待ちわびる

- (7) 大きな ヘビが 出て きて、わたしは びっくりして すわりこんで しまった。

大きな ヘビが 出て きて、わたしは ^{こし}腰を ^ぬ抜かした。

おどろいて 立てなく なる

- (8) さいごの 試合に まけて、チームの みんなは がっかりして 元気を なくした。

さいごの 試合に まけて、チームの みんなは ^{かた}肩を 落とした。

がっかりして 元気を なくす

- (9) 自由研究を 出し終えて、やる ことが なくなり、ほっと した。

自由研究を 出し終えて、^{かた}肩の 荷が 下りた。

せきにんが なくなって ほっと する

- (10) お花を 買う ために、わざわざ 遠くの 店まで 出かけた。

お花を 買う ために、遠くの 店まで 足を運んだ。

わざわざ その 場所へ 出かける

○の つけ方

こたえは 一れい です。たとえば「足を引っ張る」を「足を 手で 引いた」と 書いて いたら もう 一度。

☐ 上は 意味が 合っている ☐ 下は 同じ 意味なら ほかの ^{かん}慣用句でも ☐ 字の とおりの 意味じゃない